



岡山県立和気閑谷高等学校 (地域魅力化型)

研究開発構想名

「恕」の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成

目次

1. 本校の概要
2. 研究の概要
3. 取組の内容 (成果と課題)
 - (ア) コンソーシアム
 - (イ) 長期ループリック・パフォーマンス課題
 - (ウ) 学校設定教科・科目「地域協働探究」
 - (エ) 総合的な探究の時間「閑谷學」
 - (オ) 課外活動

1. 本校の概要

2020年に創学350年を迎えた
和気町内唯一の高校

普通科、キャリア探求科
生徒数286名 (11月現在)

※約8割が備前市・赤磐市
・和気町から通学

〈進路状況〉	R2.3	R3.3
国公立大学	3	2
私立大学	18	20
公立短大	1	
私立短大	9	4
専門学校	41	35
就職	34	41
公務員	1	2
その他	6	

H30年度入試から全国募集開始



岡山県立和気閑谷高等学校



本校の源流 旧閑谷学校

2. 研究の概要

備前市、赤磐市、和気町の2市1町をフィールドとした地域協働の活動を支える持続可能な組織づくりと事業の柱となる3つの取組を通して卒業時まで7つのチカラを育む



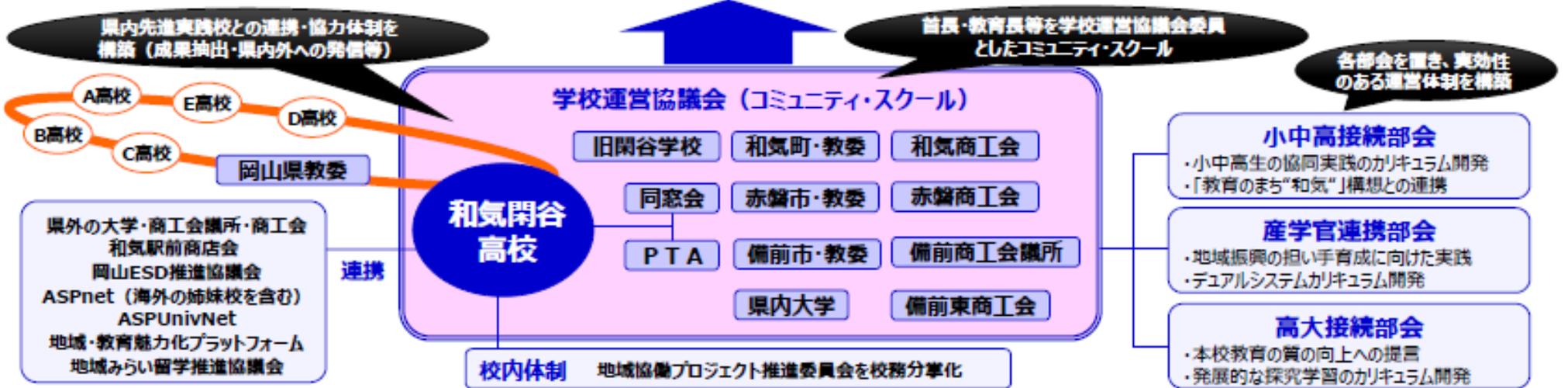
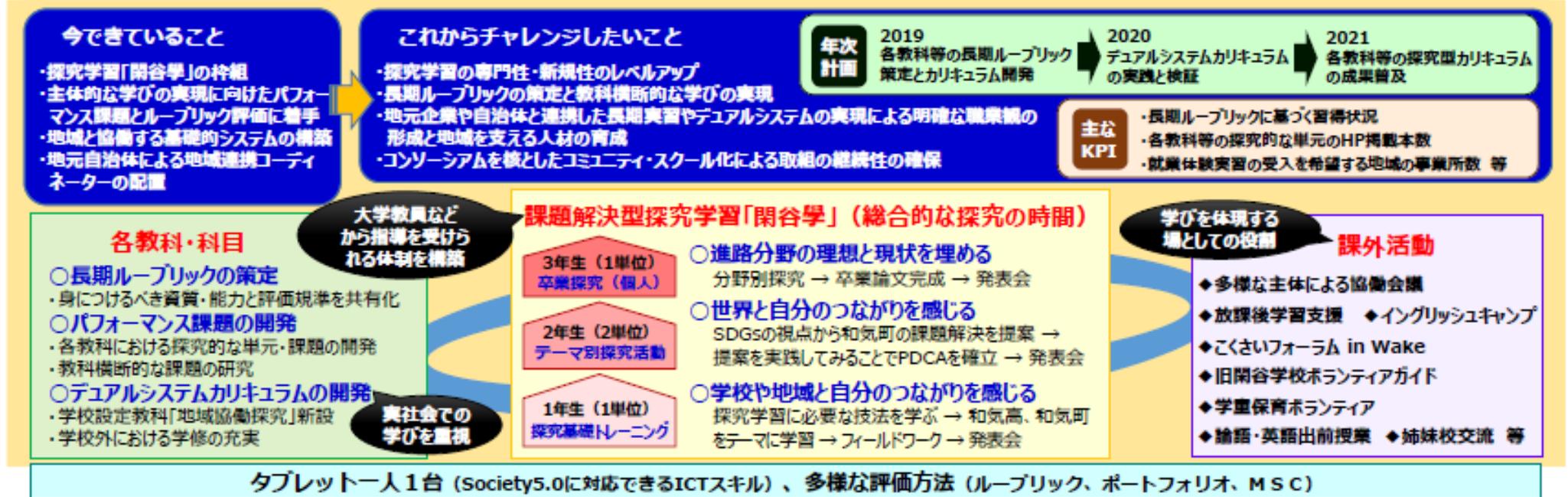
岡山県立和気閑谷高等学校

研究開発構想名：「恕」の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成



育む7つのチカラ

自分を理解する力 職業とつなぐ力 考える力 行動する力 コミュニケーション力 チームワーク力 自立する力



3.取組の内容 (ア) コンソーシアム 令和3年度運営計画

	学校運営協議会	小中高接続部会	産学官連携部会	高大接続部会
目的	保護者や地域住民等が委員となり、学校運営や運営への必要な支援に関する協議をする。	小中高生の進路、地域課題解決、学力向上における地域に根ざした接続を実現する。	地域振興の担い手育成に向けた実践と長期就業体験を軸とした学校設定科目「地域協働探究」のカリキュラム開発をする。	本校教育の質の向上と各教科・科目や「閑谷學」における探究学習のさらなる充実（高度化）を目指す。
昨年度取組	会議は3回開催した。協議事項は学校設定科目「地域協働探究」の在り方、次年度の学校運営計画策定に向けて等をグループ協議した。	部会は2回開催した。うち1回はオンライン開催。各校の個別のニーズに応じて、リーダー研修、部活動交流、障がい者野球チームとの交流を実施した。	部会は2回開催した。うち1回は書面開催。「地域協働探究」のカリキュラム内容や今後の地域振興の担い手育成について協議した。	部会は3回開催した。探究学習における局面のうち「課題（問い）の設定」に焦点をあて、「閑谷學」の担当教員も交えて協議した。
5月		【第1回】オンライン開催 ・今年度の取組について (各校の要望を集約)		
6月	【第1回】書面開催 ・学校経営計画と予算の承認 ・スクール・ポリシーの策定について		【第1回】 ・「地域協働探究」について (就業体験実習の見学)	
7月				【第1回】 ・「閑谷學」の高度化について (3年次発表会後の事例研究)
11月			【第2回】 ・活動報告と課題 (「地域協働探究」振り返り場面の授業参観)	【第2回】 ・「閑谷學」の高度化について (2年次個人探究授業参観)
12月	【第2回】 ・学校評価中間報告 (一人一台端末活用場面の授業参観)	【第2回】書面開催 ・活動報告と課題		
1月		【第3回】 ・総括（今後の体制について）	【第3回】 ・総括（今後の体制について）	【第3回】 ・総括（今後の体制について）
2月	【第3回】 ・学校関係者評価 ・次年度の学校経営計画			

令和3年度委員一覧 (役職のみ)

外部委員：
「CS」14名
3部会24名



令和4年度の
「CS (学校運営
協議会)」と部会
の構成は検討課題

校内体制：
コーディネー
ター4名、
週1回の
企画会議

学校運営協議会委員

役	職
岡山県立和気閑谷高等学校同窓会	会長
和気商工会	会長
和気町	町長
特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会	理事長
岡山県立和気閑谷高等学校PTA	会長
岡山大学教師教育開発センター	副センター長 教授
備前商工会議所	会頭
赤磐市教育委員会	教育長
和気町教育委員会	教育長
赤磐市	市長
赤磐商工会	副会長
岡山県立和気閑谷高等学校	校長
備前市教育委員会	教育長
備前東商工会	会長
備前市	市長

事務局：地域協働プロジェクト推進委員会

職名	職名
教頭	教諭 (研究開発室長)
事務長	教諭 (探究学習委員会)
主幹教諭	教諭 (探究学習委員会)
指導教諭 (学習センター長)	総括主幹
教諭 (企画主任)	カリキュラム開発等専門家
教諭 (小中高接続部会)	カリキュラム開発等専門家
教諭 (産学官連携部会)	地域協働学習実施支援員
教諭 (高大接続部会)	地域コーディネーター

小中高接続部会委員

役	職
赤磐市立桜が丘中学校	校長
赤磐市立吉井中学校	校長
備前市立三石中学校	校長
備前市立吉永中学校	校長
和気町立佐伯中学校	校長
和気町立和気中学校	校長
和気町立和気小学校	校長

産学官連携部会委員

役	職
備前市役所 市長公室	企画課長
備前市教育委員会 教育部	文化振興課長
備前商工会議所 専務理事	事務局長
備前東商工会	支援課長
赤磐市 総合政策部 政策推進課	主査
赤磐市教育委員会 学校教育課長	
赤磐商工会	事務局長
和気町 総務部 まち経営課	課長
和気町教育委員会 社会教育課長	
和気商工会	支援課長
和気金融協議会長 (株式会社中国銀行 和気支店長)	
NPO 和気サンシュユの会	理事長

高大接続部会

役	職
岡山商科大学 経営学部 商学科長	教授
山陽学園大学 地域マネジメント学部 学部長	教授
岡山大学 副理事 (高大接続・共創教育・SDGs教育担当)	
岡山大学 教育学研究科	准教授
中国学園大学	副学長

3. 取組の内容 (イ) 長期ルーブリックとパフォーマンス課題

岡山県立和気閑谷高等学校 家庭科の「7つのチカラ」と長期ルーブリック

◆家庭科長期ルーブリック

(注)「達成度2」は全員に身につけて卒業してほしいレベルです。「達成度0」は、単位の認定ができないレベルです。

観点	到達度				7つのチカラ							
	達成度0	達成度1	達成度2	達成度3	1	2	3	4	5	6	7	
関心・意欲・態度	●「 <u>授業心遣い</u> 」が守れない。 ●家庭や地域の生活について、その充実向上を目指した課題に取り組もうとしない。	●家庭や地域の生活について、その充実向上を目指した課題に取り組もうとするが、 <u>最後までやり遂げることができないことがある。</u>	●家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、 <u>実践的な態度を身に付けている。</u>	●家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、 <u>家庭で実践できている。</u>	○				○			○
思考・判断・表現	●家庭や地域の生活について、その解決を目指して、 <u>インターネットや文献を調べていない。</u>	●家庭や地域の生活について、その解決を目指して、 <u>インターネットや文献を調べているが、自分なりに考えたり工夫したりはできていない。</u>	●家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	●家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付け、それを家庭や地域で生かそうとしている。			○					
技能	●家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けていない。	●家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術をおおむね身に付けている。 ●仲間と協力して実習に取り組んだり、自分の考えをまとめて発表することには消極的である。	●家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。 ●仲間と協力して実習に取り組み、自分の考えをまとめて発表することができる。	●家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。 ●リーダー的な役割を担い、仲間と協力して実習に取り組み、自分の考え・他者の考えをまとめて発表することができる。		○						
知識・理解	●学習内容に関する調査での理解の程度が25%未満である。 ●授業の成果物の内容が50%未満の <u>できばえ</u> である。	●学習内容に関する調査での理解の程度が25%以上である。 ●授業の成果物の内容が50%以上の <u>できばえ</u> である。	●学習内容に関する調査での理解の程度が50%以上である。 ●授業の成果物の内容が70%以上の <u>できばえ</u> である。	●学習内容に関する調査での理解の程度が70%以上である。 ●授業の成果物の内容が80%以上の <u>できばえ</u> である。	○	○						

7つのチカラ

教科ごとの長期ルーブリック
↓
単元ルーブリック

◆家庭科の「7つのチカラ」

1 自分を理解する力	学習活動を通じて、自分の興味・価値観・長所などを確認する力
2 職業とつなぐ力	衣食住、保育、家庭看護や介護などのヒューマンサービスにかかわる生活産業に従事するための基礎的な力
3 考える力	学習を通じて習得した技術や知識を実際の生活の場面で適切に活用するために判断し、意思決定する力
4 行動する力	知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる力
5 コミュニケーション力	実践的・体験的な学習活動を通して、自分の考えをまとめて発表したり、表現したりする力
6 チームワーク力	実践的・体験的な学習活動を通じて、その場に応じて適切な役割や責任を果たそうとする力
7 自立する力	消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルを確立しようとする力

長期ルーブリックに関連した評価の実施
3割(R2)→6割(R3)
「授業工夫アンケート」より

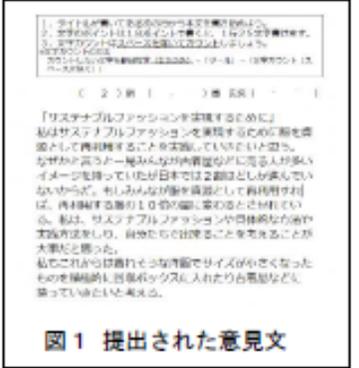
教科横断型等の パフォーマンス 課題実践報告を 学校HPに掲載

教科横断型の授業実践 3割(R2)→7割(R3) 「授業工夫アンケート」より

実践者等	谷高等学校	
実践日	令和3年7月26日	
実践場面	家庭・家庭基礎	国語・国語総合
対象生徒	普通科1年	
単元名	家庭基礎：衣生活をつくる	国語総合：小論文を書こう
使用したアプリ等	Googleドキュメント、スプレッドシート、スライド、classroom	
実践の概要	家庭科と国語科の教科横断型授業。持続可能な衣生活（サステナブルファッション）を実現するために現状を調べ、自分が今すぐ取組むべきことを考え、意見文にまとめて発表する。取組むために自分に必要な知識や技能は何かを自覚して、学習に取組めるよう単元導入部分で行った。また、意見文は、国語総合の「小論文（意見文）の書き方」を復習して作成する。情報活用能力・問題発見能力・言語能力の育成を目指す。	

実践の内容

- 目標・手順・達成基準の確認
○教員説明(スライド：「目標・手順・達成基準」)
- サステナブルファッションへの取組の必要性を理解
○教員説明(スライド：デジタル教科書・環境省HP参照)
- 調べたことをもとにワークシート(WS)を記入
○各自がchromebookを使用し、環境省HPで紹介されている企業や行政の取組から気になった取組を3つ記入
・自分自身が今はできていないがこれからできること、取組もうと思うこと、みんなでやらなければいけないと思うことを3つ記入
・1つを選び、その根拠説明と根拠データを記入
○WSは写真を撮り、classroomから提出【授業後】
- 意見文を作成・提出
・国語科教員から意見文書き方について説明を受け、確認
○classroomから配付したドキュメント(図1)に意見文を作成・提出【課題】



家庭科×国語科 社会科×外国語科 社会科×理科
数学科×社会科 商業科×社会科 体育科×外国語科 等

3.取組の内容 (ウ) 学校設定教科・科目「地域協働探究」

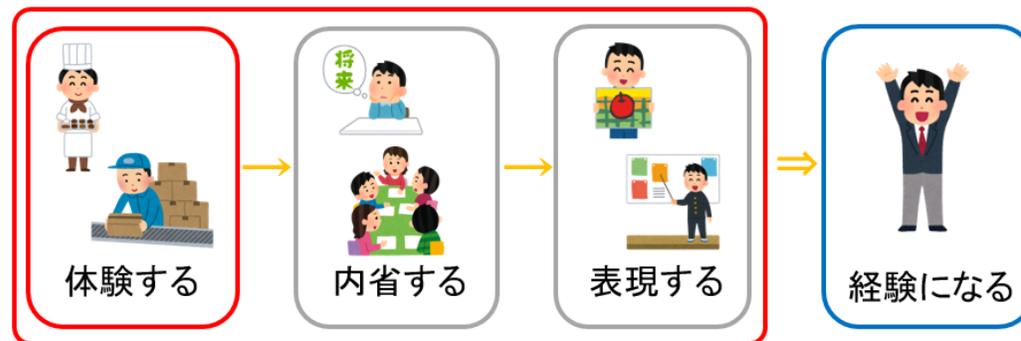
金曜：体験活動
火曜：振り返り

R3年度の活動内容

普通科・キャリア探求科3年次生 2単位 選択者13名(就職希望者)

- ① 5～7月 地域事業所での就業体験 8回中4回実施
- ② 6月 校内就業体験 2回 *コロナ禍の代替措置
- ③ 6月 就業体験先とのオンライン交流会 1回
*コロナ禍の代替措置
- ④ 9月 社会人とのオンライン対話 2回
- ⑤ 10月 就業体験受入事業所へ学びの報告動画作成
- ⑥ 11～1月 和気駅魅力化プロジェクト

体験を経験に変える力をつける



R4年度以降 普通科(協働探究系)の全員履修科目に
2年次「地域協働探究α」5単位、 3年次「地域協働探究β」6単位

『地域協働探究α・β』就業体験スケジュール ～令和5年度以降～

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

2年次

実習①

実習②

3年次

実習③

引継



就業体験 7事業所
社会人との対話 6事業所
地域貢献 1事業所



3.取組の内容 (工) 総合的な探究の時間「閑谷學」

校内体制：探究学習委員会
コーディネーター2名

2市1町バスツアー：
産学官連携部会の協力

探究の高度化：
高大接続部会で協議

	1年次	2年次	3年次
1学期	学校への適応 仲間づくり	単元Ⅱ 地域探究 イントロダクション ※SDGsについて 問いの再設定、仮説→検証 2市1町フィールドワーク 発表準備、リハーサル	単元Ⅲ 未来探究 イントロダクション 問いの再設定、仮説→検証 調査・分析・実践 発表準備、リハーサル
	単元Ⅰ 探究基礎 イントロダクション、2市1町バスツアー ウィキペディア作成、発表準備、リハーサル ※探究手法の習得1[発想法、文献調査の方法、プレゼン手法(Google スライド)]		
	クラス内発表 探究学習発表会 (引き継ぎ)	探究学習発表会	探究学習発表会
2学期	単元Ⅱ 地域探究 問いの設定、仮説→検証 2市1町フィールドワーク ※探究手法の習得2[インタビュー手法、アンケート手法]、SDGsについて	単元Ⅲ 未来探究 問いの設定 調査・分析・実践 ※文献調査	単元Ⅳ 卒業論文 論文の書き方 論文集作成
	発表準備、リハーサル	発表準備、リハーサル	ふりかえり 後輩の指導
3学期	ゼミ内中間発表	ゼミ内中間発表	
	ふりかえり	ふりかえり	

グループ探究：各テーマに外部講師を依頼

一人2,000字の論文執筆

2/1「学習成果発表会」：
地域協働事業関係者を招待

問いの設定：
高大接続部会で協議

令和3年度2年次1学期グループ探究テーマ一覧

分野	テーマ	講師
健康	①小学生の心身の健康をUP↑しよう。	今田早英子氏（本荘児童クラブ主任指導員） 大森雅勝氏（有限会社ビッグモリーズ代表取締役）
	②患者と高齢者・障がい者が幸せに暮らすために、今自分たちにできること。	和田広子氏（公益財団法人福武教育文化振興財団）
	③スポーツdeサイエンスらぼII～気軽に誰でもスポーツ(運動)ができるコミュニティを立ち上げよう！	山本葵氏（元和気町地域おこし協力隊）
教育	①小中学生に論語を広めよう！	香山真一氏（岡山県青少年教育センター閑谷学校所長）
	②和気閑谷高校の魅力を発信しよう(全国募集に生かそう)	本校教頭
	③国際交流のプロデューサーになろう！	吉岡香織氏（和気町教育委員会学校教育課／地域おこし協力隊） 森元純一氏（和気町教育委員会社会教育課）
歴史文化	①大國家の保存修復作業に参加しながら活用方法を考える。	有正典之氏（有正建設一級建築士事務所一級建築士） 芥川英祐氏（新東住建工業(株)文化財建造物木工技能者番匠）
	②プロジェクションマッピングを使って、何ができるか考える。	江森真矢子氏（本校カリキュラム開発等専門家）
	③Riverside art プロジェクト～川沿いにあたたかな居場所づくりを	松穂亜花音氏（和気町地域おこし協力隊）
ビジネス	①備前焼を盛り上げる方法を考え、実施する。	森敏彰氏（宝山窯備前焼作家）
	②梅村さんちをカフェにしよう！	梅村竜矢氏（本校カリキュラム開発等専門家）
	③具体的な観光プランを考えて、実践しよう。	下鳥誠氏（ワケベル代表）
自然科学	①校内のビオトープを発展させ、活用しよう。	下野亀氏（元本校理科教員）
	②自然保護センターに地元の中高生を呼ぼう！	阪田睦子氏（岡山県自然保護センター）
	③使われていない放棄地を何かに生かそう！	菅崎大生氏（和気町役場産業振興課）

**閑谷學関係
外部人材**
 ※発表会来場者含む
R1：222名
R2：30名
R3：65名
 (12月現在)



3.取組の内容 (オ) 課外活動



- ◆多様な主体による協働会議
- ◆放課後学習支援 ◆イングリッシュキャンプ
- ◆こくさいフォーラム in Wake
- ◆旧閑谷学校ボランティアガイド
- ◆学童保育ボランティア
- ◆論語・英語出前授業 ◆姉妹校交流 等

【地域の方の声】

- ・若い新しいアイデアを得られた
- ・高校生の頑張りに励まされた
- ・地域こぞって協働できたことが嬉しい

令和2年度～
和気駅前イルミネーション
作成ボランティア



9月下旬～11月下旬
生徒51名、地域の方
(和気町本荘地区
まちづくり協議会・
和気町立本荘小学校)
275名参加

【生徒の声】
主体性・行動
力・コミュニ
ケーション能力
が身についた

